

丸太、製品とも需給緩和続く

国産材商況

国産材は、6月の梅雨入りで丸太の供給が減少し、製品は需要の上向きが期待されたが、結果的に丸太の出材は落ち込み、製品の引き合いは期待ほどは盛り上がりなかつた。そのため丸太、製品とも全国的に需給の緩い状態が3カ月ほど続き、相場も軟調に推移している。6月下旬から雨天の日が増えてきたこともあり、7月は出材の減少が見込まれている。製品は特に中間流通でまだ一服感が色濃いが、ここ数年7月は需要の小山が出ているため、今年も荷動きがまとまってくるのが期待されている。

相場軟調、地合い固まらず

6月前半はプレカッ ト向けを中心に好調な 出足が見られたが、ま とまった荷動きにはつ ながらず、製品の売り にくさが目立つ。木造 の住宅着工数は比較的 堅調で、非住宅物件の 木造化も確実に国産材 製品の需要を積み増し ている。ただ、製品の 供給が順調なため需給 が締まらない。

競合する米材等の外

きが落ち着いたこと

割り込む価格も散発し

してきた。さらに相場の

も、需要の閉そく感に つながっていること見ら れる。 競争の激しい関東市 場では、特に6月後半 から一段と相場が緩み やすくなり、杉柱3ダ ー KD特等105ダ ー角が 5万5000円

(立方ダ ー)を中心に、 1車単位などの大口取 引では5万円(同)を 割り込む価格も散発し してきた。さらに相場の

00円(同)まで値上 がつた杉4ダ ー×90ダ ー角 特等も、3万3000 円前後(同)へ落ちて きた。 丸太相場の弱含み は、一部地域・品目を 除き5カ月ほど続いて いるため、民有林での 出材意欲の減退が懸念 され始めた。特にここ 3カ月は松の値下がり

が目立ち、主要産地で およそ3年ぶりに1万 5000円台(同)の 相場が立ってきた。杉 3ダ ー柱取りは、出材分 は手当てされるため荷 余り感が薄いのが、相場 はシリ安基調が続き、 主要産地の相場が1万 1500~2500円 (同)と前月比500 円安となっている。杉 中目は杉柱より引き合 いが弱く、相場の下値 が1万円(同)まで広 がってきた。杉大径材 は売れ残る量が増えて いる。